

ふれあい

2024

8

No.449

牛久愛和総合病院 広報誌



救急救命士科のご紹介

救急救命士科 科長 高須 明倫



本年5月1日に、新規創設された「救急救命士科」の科長に就任いたしました高須明倫と申します。

私は、昭和56年4月に阿見町消防本部（稲敷広域消防本部との広域合併により現阿見消防署）に入職し、平成7年に救急救命士の資格を取得、消防人生の大半を救急の現場に身を置き、数多くの現場を経験し救急救命に努めて参りました。

新規に創設された救急救命士科の院内体制は、救急救命士の資格を持った3名（消防経験者2名、新卒者1名）です。

救急救命士科の行う業務は
・ドクターカーの運用

当院のドクターカーは、早

期に高度な救急医療を提供する救急車です。出場スタッフは、医師、看護師、救急救命士で、ドクターカーの要請は稲敷広域消防本部の現場救急隊が判断し要請します。ドクターカーが出場する地域は、牛久市、龍ヶ崎市、稲敷市、阿見町、河内町、利根町、美浦村の三市三町一村です。

ドクターカーは、令和4年から運用を開始し、現在までの出場は100件を超え、数多くの災害に出場しています。工場火災、交通事故現場等で発生した多数のケガ人に対する現場での処置やトリアージ（緊急度、重症度の鑑別）や家庭で発生した脳卒中、心筋梗塞、ケガによる大出血などに出場しています。

・救急センター内の

診療補助

医師の指示のもと、
コメディカルの一員



として、患者様の身体状態の観察や検査室、入院病棟への移送など患者様に寄り添った業務を行っています。

・研修生の受入れ調整

救急救命士を目指す専門学校の生徒や、消防機関に勤務する現職の救急救命士の病院内での研修に必要な院内調整を行います。研修生により多くの学びがあるようサポートしています。

最後に、当院が掲げる理念の一つ「救急医療」、さらには地域の救急医療に貢献できるよう努めて参ります。

第68回日本リウマチ学会総会・学術集会

リウマチ・膠原病内科 田内 榮子

4月18日から4月20日の3日間、山形大学整形外科講座教授の高木理彰会長の元、第68回日本リウマチ学会総会・学術集会在神戸コンベンションセンターで開催されました。同学会はリウマチ性疾患の研究と診療の向上を目的に昭和32年に設立され、

内科学領域でリウマチ専門医・指導医の認定などを行って来ました。今年のテーマは「流心をとる」でした（なおリウマチの語源はラテン語の「痛みが」「流れる」に由来します）。研修医の山田先生、大久保先生や医局の諸先生方、病棟や医局のスタッフの皆様のお陰で、医局員全員が参加でき、野村先生と私はポスター発表を行いました。今年の目玉として、関節リウマチ診療ガイドライン2024の改訂発表に関する講演があり、多くの聴衆の一人として私も拝聴しました。同ガイドラインは2020年改訂のPhase 1-3のフローを元にしていますが、今回

の改訂ではbDMARDs無効時の生物製剤としてリツキサ（保険適用外）の推奨や、MTX効果が不十分例やbDMARDs無効時のJAK阻害剤の推奨、JIAに関する推奨などが新たに加わりました。また、血管炎・SLE・APS・筋炎・強皮症等の膠原病や関節リウマチの周術期管理に関するワークショップ、関節エコーのハンズオンセミナーに参加し、現在の診療に有用な知見を得ることができました。さらに近未来の医療のトピックとして、医療におけるAI利用（生産性を上げる生成AIの使い方）千葉大学整形外科牧聡講師）や、再生医療（臓器再生を目標としたバイオ3Dプリンタの開発とその応用について）佐賀大学医学部付属再生医学研究センター中山功一教授、「リウマチ医も知っておきたい再生医療最前線・変形性膝関節症の病態と半月板の細胞治療」東京医

科歯科大 再生医療研究センター 関矢一郎センター長（教授）も、こちらは即時の応用はかたがたありませんが、大変興味深く拝聴しました。また会場では旧知の先生方にご挨拶した際に、先生方の大変なりウマチ診療へのご献身を伺い（私の出身の東海大ではMDA5抗体陽性筋炎診療の第一人者の佐藤教授の元、多くの膠原病患者さんの診療を行っています）、夜は野村先生主催にてリウマチ・膠原病内科のメンバーで懇親会に参加、親睦を深めました。今回、秀逸ポスター賞を頂戴しましたが、実は科内だけでなく筑波大学の先生の貴重なご助言もあつたの事でした。日頃のご厚情への感謝の他ございません。学会に参加できた事、会期中に大過なく過ごせました事も皆様のお陰と、篤く御礼申し上げます。



Dr趣味リレー

消化器内科 重光 章鈞

昔、研修医の頃もこちらに書かせていただきましたが、私はアマチュアでボクシングをしていました。高校からボクシングを始め、筑波大学では茨城県ボクシング連盟にお世話になりました。ボクシングの試合に出場してました。フィリピン英雄パッキヤオのような最貧困から成り上がるアメリカンドリームに憧れ、一時期はプロボクシングの世界に進みたいと思っていた時期もありますが、文武両道を完遂することは自分

の能力では困難であり、医師の道一本に決めました。医師になり数年が経過し、消化器内科医として働く傍ら、今はボクシング連盟所属のリングドクターとして定期的にボクシングの大会で活動しています。運営側となり大会運営に携わり、若者たちに夢を引き継ぐ立場になりました。未来のチャンピオンのために、若き選手たち、ボクシング連盟の皆さんとともにいい大会を作っていきたいと思

入職者

7月1日付

■経理課

今井 秀哉

多くの縁を大切にしながら、色々な形で地域貢献できるように努めて参ります。

■看護部

看護師 奥田 温子

年子兄弟を育てています。

■春秋園

ケアサービス部

介護福祉士 前川 唯

通所介護は未経験ですが、利用者様ひとりひとりに寄り添うケアが出来るよう、心を込めて取り組めます。

春秋園だより



セミの合唱が本格的に聞こえる季節となりました。

今回はユニットフロアの壁飾り作製の様子を紹介します。

最初に、利用者様と一緒に、どうしたら季節を感じる事ができるか、壁飾りのテーマを考えます。春〜初夏にかけては「藤」を、梅雨時期に合わせて「あじさい」をつくることに決めました。

藤の花は、お花紙を使用したものと、折り紙を輪にしたものの二種類作製しました。お花紙の藤の花は、上から吊るすように飾り、空調の風でゆらゆらと揺れており、涼しげで利用者様からの評判も上々です。折り紙を輪にした藤の花は、紫と薄紫を交互に繋げたり、途中で白を混ぜたりと、利用者様の



の好みで繋げていき、季節を感じられる作品になりました。

あじさいは、お花紙を数枚

にまとめる係、じゃばら折りにして留める係、花びらを開く係、何組かに分かれて作業をすすめ



ました。紫やピンク、青、水色を混ぜたり、一色で作ったりと個性豊かなあじさいの花がたくさんできました。「開くのがなかなか難しくて」「次はピンクを入れてみようかしら」等、利用者様同士の会話も弾み、会話も作業も楽しみながらレクリエーションとして行っていました。出来上がったあじさいの花を「自分の部屋に持ち帰りたい」とおっしゃる方もいて、スタッフ共々楽しみながら行うことができました。壁に飾ると、いろいろな色のあじさいの花が咲き、とても華やかで、ジメジメとした気分が晴れやかになりました。まだまだ暑い日が続きますので、体調を崩しやすくなりますので、室温調整に気を配り、その方に合った衣類等で快適に過ごせるように努めてまいります。

(春秋園 ユニットスタッフ一同)

部署紹介

B6階病棟

師長 海老根 美佳

こんにちは、今回はB6階病棟の紹介をさせていただきます。B6階は障害者病棟となっています。障害者病棟とは重度の肢体不自由者、脊髄損傷等の重度障害者、重度の意識障害者、筋ジストロフィー患者、難病患者等がおおむね7割以上入院している病棟のことをいいます。

当院の障害者病棟は2病棟90床あります。主に、急性期の治療を経てリハビリを行いながら希望する療養先に退院するまでの患者様、在宅サービスの調整がつくのを待っている患者様がほとんどです。また、在宅でご家族の協力が必要となるケアがある場合には、入院中に指導を行い、不安なく在宅介護を行えるよう支援もしています。患者様、ご家族の意向を確認しながら療養先を決定し調整をするために、病棟看護師だけでなく医師、リハビリスタッフ、退院支援看護師や医療ソーシャルワーカー等と協働し退院に向けた支援を行っています。

病棟スタッフは24名(うち看護助手が2名)在籍し、新入職者から子育て

中のスタッフや子育てが終了した看護師と年齢層は様々です。また、少数ではありますが男性スタッフもおり、力を必要とする場面ではその能力を発揮してくれています。患者様が安心して療養生活を送れるようスタッフ一丸となって努力していきたいと思っております。



左の写真は、患者様に季節を感じてもらえるようにと手芸が趣味のスタッフが七夕の時に作成してくれた作品の「織姫と彦星」です。スタッフステーションに飾っていましたが、次はなにが作品となるのか……私たちも楽しみにしています。

《出来事ピックアップ》

七夕集会

7/6



7月6日(土)に七夕集会を行いました。年長児が、「ほ、ほ、ほたるこい」と歌いながら火のついた提灯を持って歩く姿は、とてもきれいで皆見入っていました。そして、初めて書いた習字を紹介し、歌と詩を朗読しました。皆から大きな拍手をもらい、とてもうれしそうな年長児でした。次は保育士による七夕の人形劇です。「わあ、きれい」と歓声が上がったり、小さい子も人形を指さしながらよく見ていました。



最後に皆で踊って楽しく集会は終わりました。外に飾った笹飾りが風に吹かれ、サラサラと良い音をさせて揺れていました。天の神様に皆の願いが届きますように。 (保育課係長・榊原)

編集だより

今年の夏は例年以上の猛暑予報です。夏はお祭りなどイベントも盛りだくさんですが、熱中症リスクも高まりますのでこまめな水分補給と休息を心がけ、安全に楽しい夏をお過ごしください。

(S・M)

病院理念

我々は医療全般は基より、3つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供すると共に、職員一同自己研鑽に励みます。

病院概要

病床数 489床 (一般391床 医療療養型55床 地域包括ケア43床)

施設

敷地 59,449.60㎡ 駐車場 1151台



診療科目

【一般外来】

内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、小児科、眼科、泌尿器科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、外科、乳腺外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科口腔外科、甲状腺・内分泌外科、血管内治療科

【専門外来】

内科 (禁煙外来)
整形外科 (股関節、脊椎、スポーツ、肩関節、膝関節)
小児科 (小児循環器、小児心理、小児免疫)
皮膚科 (レーザー外来)
外科 (下肢静脈瘤外来)
ストーマ外来
そけいヘルニア専門外来
透析外来
内視鏡検査
検診検査 (乳がん検診)

日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団 常仁会

救急 24時間

牛久愛和総合病院

〒300-1296 茨城県牛久市猪子町896番地
Tel 029-873-3111 Fax 029-874-1031
ホームページ http://www.joinkai.com

《関連施設》

- 総合健診センター Tel 029-873-4334
健康増進施設 スポーツリラックス Tel 029-874-8791
人工透析センター
読影センター
地域リハ・ステーション
介護老人保健施設 春秋園 Tel 029-870-3100
ひたち野ステーションクリニック Tel 029-896-6200
特別養護老人ホーム グランヴィラ牛久 Tel 029-817-5111

